

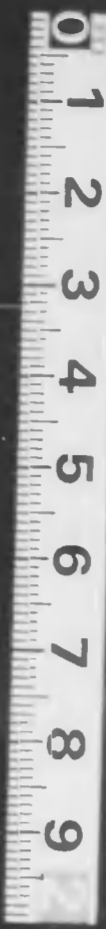
週寫真報

編輯局報情

十一月廿四日 第二十九百九十九號

つゞけ決戦の大空へ

ギーユニ



この手で造つた飛行機が
 この眼で送つた荒鷲が
 あの驚天の戦果をあげたのだ
 われらは
 戦場をにらんでまっしぐらに
 飛行機を造るのだ
 あの荒鷲につぶくのだ

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい



海軍ひとたび飛び大
 ては南洋は鮮血に染
 み、敵艦隊は海の蕪
 屑と化す。一発轟沈
 の雷撃機ひとたび飛
 れば世界を驚倒さす
 大戦果をあげるのだ
 撮影三校海軍航空隊員

空の決戦相次ぐ

第一、第二、第三、第四次
ブーゲンビル島沖航空戦

戦果に應ふる途

一 ソロモン戦局の緊迫化
十一月五日大東亞の首都東京において大東亞六ヶ國代表並びに自由印度政府首班を廻顧する劇期的大東亞會議が厳肅裡に開會され、大東亞十億の民は、今更の如く大東亞戦争の崇高な



艦隊部隊

空の決戦相次ぐ

る意義と大東亞建設の使命の重大性を痛々と體得したのであるが、翌六日我が大東亞代表は、ブーゲンビル島沖海戦並びにラバウルにおける航空遊撃戦の勝々たる戦果を報へた。その後、相つゞ大東亞代表は、日を通じて續大する我が方の大戦果と、海ゆかば水漬く屍三疊たすは止まじの壯烈正に鬼神を哭かすむる我が海軍航空部隊の奮戦力圖と、海上部隊及び地上部隊の猛

攻振りを傳へ、銃後、徳國民はこの稀有の大戦果に歡喜すると共に、ソロモン群島方面における戦局の重大化を痛感、今こそ國內無勢の強化、生産増強に一段の努力を致し、以て前線將兵の七生報國の忠魂義膽に應へ、南海にあらざる誠の戦果に感謝せんことを誓つたのである。敵のモノ島上陸以來「第四次ブーゲンビル島沖航空戦」までの総合戦果は

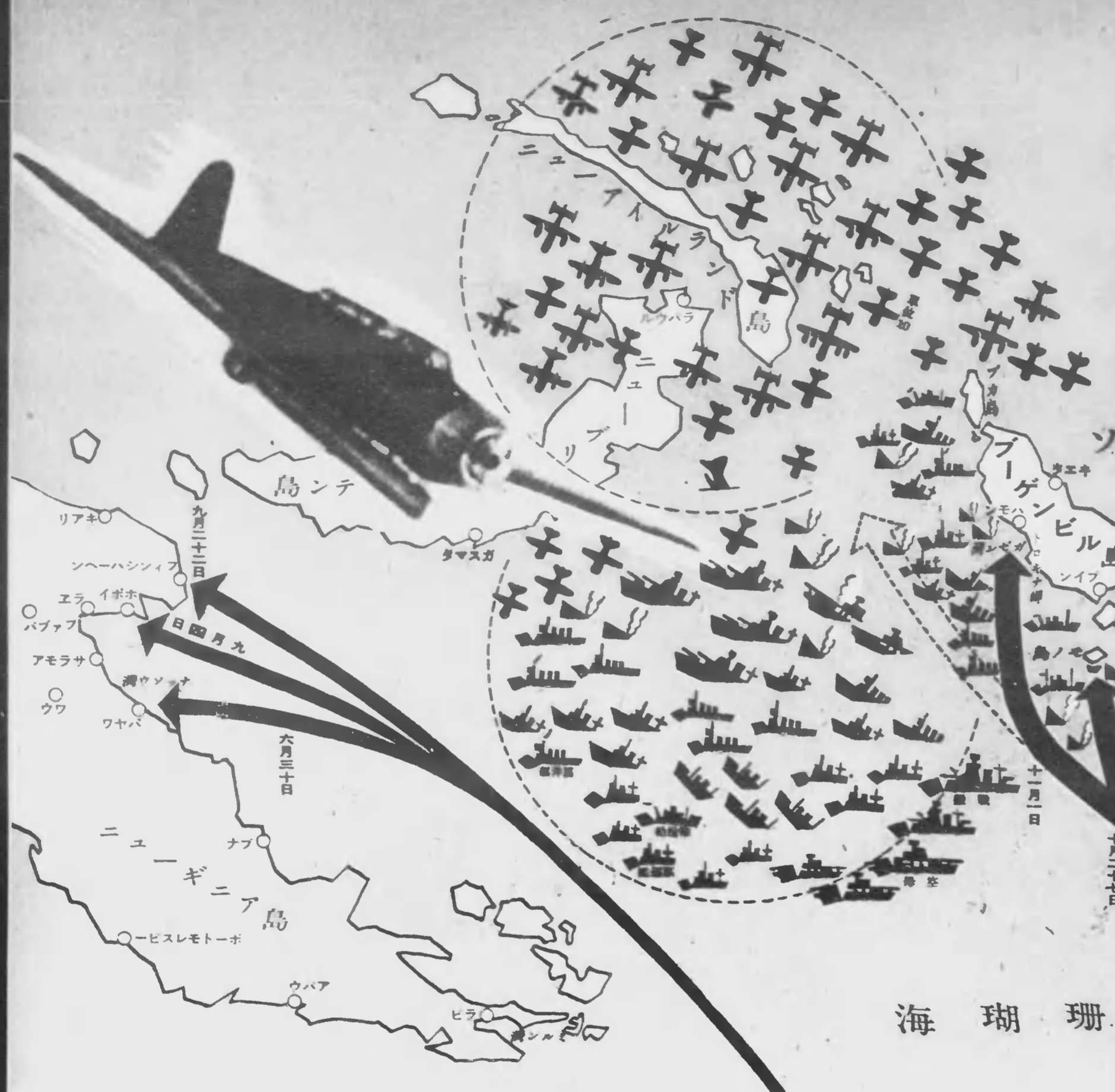
沖航空戦 一、大東亞代表は、この大戦果に酔ふ前に、この戦果そのものがたやすく獲得されたものでないことを深く考へなければならぬ。また敵が、右の戦果にも見る如く、大規模なる輸送船團、強力なる航空兵力、空母集團、大艦隊等を續々出撃せしめ、所謂「量」を恃みとする強引なる正攻法を以て、我が戦略要線へ直接その鋒先を向けて来た事實を讀じて輕視してはならない。

二 頑強な敵の戦意
敵は從來ソロモン方面において數次に亘り、いはゆる「島傳り作戦」をとり來つたのであるが、今次の反攻作戦は、全くその性格を異にし強引なる正攻法で押切らんとするものであり、戦略的に極めて重大視すべき作戦である。かねて大東亞代表の建設によつて、我が方の戦力が強化せられんことを恐れる敵は、建設の「時」を我々に與へまいと必死に反攻し來つたのであるが、敵の反攻目標はわが戦略要線、特にラバウルに直接向けられてをり、敵はラバウルより直接本土へ、或ひはまた比島に出でて我が戦略要線を攪亂するとともに、共榮國の交易を破壊して豊富なる南方資源の戦力化を妨害、東亞解放の大理想をもつ共榮國の建設を阻礙に附せしめんと企圖しつゝあるものやうである。現在、敵が攻撃目標として既に敵部隊の一部を上陸せしめたブーゲンビル島は、ソロモン群島北端にある我が重要據點であるのみならず、さらには敵が同島を足場として、ラバウルその他大東亞防衛の我が戦略線内に侵入らんとするものなるに考へ及ぶならば、大戦果に酔つてゐる戦局ではないことを痛感するであらう。

もろろん、今次の決戦によつて、我が方が敵に與へた打撃は甚大であつたが、かゝる甚大な打撃を蒙つても敵は決して簡單に引退る道理はない。陣容を整備強化してくりかへし、反攻を企てることは必ずである。その場合においても、飽くまで物を持つ敵は、龐大な生産力を背景とし、強大な航空兵力、海上兵力を動員して反攻し來ることは想像に難くない。しかしながら、敵の「量」を以てする強引な反攻に對して、我々もまた「量」を以て對抗すれば敵を壓倒し得ること、今次の戦局でもまさしく立證されてゐる。例へば、ラバウルの航空遊撃戦において、わが海軍航空部隊、海上部隊、地上部隊は二百數十機中實に二百一機を撃墜し去つたのである。このことは獨り航空機並びに搭乗員のみでなく、艦船、兵器の殆んど總てについて言ひ得ることであつて、今こそ銃後生産陣、否、一億國民すべてが決然立つて、一層の生産増強に邁進すべき秋である。またかくすることが、前線將兵が碧血を以て瀟々得た今回の大戦果に關する唯一の途であり、また敵米英の不逞なる反攻企圖を徹底的に撃退し去る最短の捷徑に他ならない。

三 銃後への期待
今やソロモンの戦局は極めて重大なる段階に突入した。しかしして前線と銃後、第一線の戦場と銃後生産陣の一體化が、今日ほど切實に要請されてゐる時はないのである。銃後の國民が現下戦局の重大性を一層明確に把握し、一機でも多くの飛行機、一人でも多くの搭乗員、一隻でも多くの艦船を前線に送ることによつて、今回の戦果を更に擴大し、俄慢且つ執拗なる敵の反攻企圖を徹底的に粉碎すること、これが戦闘配置についた一億國民の任務である。

第一次並びに第二次ブーゲンビル島沖航空戦において、求敵必滅の烈々たる氣魄と盡忠報國の至誠に燃え、敢然中隊の陣頭に立つて敵中へ突入した納高大尉、清宮大尉ほか三中隊長をはじめ、航空隊員すべてに服々として波うつ壯烈崇高なる大精神こそ、一億國民の一人々々が、今こそしつかり身につくべき大和魂の精華でなければならぬ。



大東亞代表は、この稀有の大戦果に歡喜すると共に、ソロモン群島方面における戦局の重大化を痛感、今こそ國內無勢の強化、生産増強に一段の努力を致し、以て前線將兵の七生報國の忠魂義膽に應へ、南海にあらざる誠の戦果に感謝せんことを誓つたのである。敵のモノ島上陸以來「第四次ブーゲンビル島沖航空戦」までの総合戦果は

沖航空戦 一、大東亞代表は、この大戦果に酔ふ前に、この戦果そのものがたやすく獲得されたものでないことを深く考へなければならぬ。また敵が、右の戦果にも見る如く、大規模なる輸送船團、強力なる航空兵力、空母集團、大艦隊等を續々出撃せしめ、所謂「量」を恃みとする強引なる正攻法を以て、我が戦略要線へ直接その鋒先を向けて来た事實を讀じて輕視してはならない。

二 頑強な敵の戦意
敵は從來ソロモン方面において數次に亘り、いはゆる「島傳り作戦」をとり來つたのであるが、今次の反攻作戦は、全くその性格を異にし強引なる正攻法で押切らんとするものであり、戦略的に極めて重大視すべき作戦である。かねて大東亞代表の建設によつて、我が方の戦力が強化せられんことを恐れる敵は、建設の「時」を我々に與へまいと必死に反攻し來つたのであるが、敵の反攻目標はわが戦略要線、特にラバウルに直接向けられてをり、敵はラバウルより直接本土へ、或ひはまた比島に出でて我が戦略要線を攪亂するとともに、共榮國の交易を破壊して豊富なる南方資源の戦力化を妨害、東亞解放の大理想をもつ共榮國の建設を阻礙に附せしめんと企圖しつゝあるものやうである。現在、敵が攻撃目標として既に敵部隊の一部を上陸せしめたブーゲンビル島は、ソロモン群島北端にある我が重要據點であるのみならず、さらには敵が同島を足場として、ラバウルその他大東亞防衛の我が戦略線内に侵入らんとするものなるに考へ及ぶならば、大戦果に酔つてゐる戦局ではないことを痛感するであらう。

もろろん、今次の決戦によつて、我が方が敵に與へた打撃は甚大であつたが、かゝる甚大な打撃を蒙つても敵は決して簡單に引退る道理はない。陣容を整備強化してくりかへし、反攻を企てることは必ずである。その場合においても、飽くまで物を持つ敵は、龐大な生産力を背景とし、強大な航空兵力、海上兵力を動員して反攻し來ることは想像に難くない。しかしながら、敵の「量」を以てする強引な反攻に對して、我々もまた「量」を以て對抗すれば敵を壓倒し得ること、今次の戦局でもまさしく立證されてゐる。例へば、ラバウルの航空遊撃戦において、わが海軍航空部隊、海上部隊、地上部隊は二百數十機中實に二百一機を撃墜し去つたのである。このことは獨り航空機並びに搭乗員のみでなく、艦船、兵器の殆んど總てについて言ひ得ることであつて、今こそ銃後生産陣、否、一億國民すべてが決然立つて、一層の生産増強に邁進すべき秋である。またかくすることが、前線將兵が碧血を以て瀟々得た今回の大戦果に關する唯一の途であり、また敵米英の不逞なる反攻企圖を徹底的に撃退し去る最短の捷徑に他ならない。

三 銃後への期待
今やソロモンの戦局は極めて重大なる段階に突入した。しかしして前線と銃後、第一線の戦場と銃後生産陣の一體化が、今日ほど切實に要請されてゐる時はないのである。銃後の國民が現下戦局の重大性を一層明確に把握し、一機でも多くの飛行機、一人でも多くの搭乗員、一隻でも多くの艦船を前線に送ることによつて、今回の戦果を更に擴大し、俄慢且つ執拗なる敵の反攻企圖を徹底的に粉碎すること、これが戦闘配置についた一億國民の任務である。

第一次並びに第二次ブーゲンビル島沖航空戦において、求敵必滅の烈々たる氣魄と盡忠報國の至誠に燃え、敢然中隊の陣頭に立つて敵中へ突入した納高大尉、清宮大尉ほか三中隊長をはじめ、航空隊員すべてに服々として波うつ壯烈崇高なる大精神こそ、一億國民の一人々々が、今こそしつかり身につくべき大和魂の精華でなければならぬ。

將大賀古官長司令隊艦合聯りた乎儼

大本營發表「昭和十八年十一月十一日十一時三十分」
大元帥陛下には本日海軍幕僚長を召させられ聯合艦隊司令長官に對し左の勅語を賜りたり

勅 語

聯合艦隊航空部隊ハ今次「ソロモン」海域ニ於テ勇戦奮闘大ニ敵艦隊ヲ撃破セリ朕深ク之ヲ嘉ス
惟フニ同方面ノ戦局ハ益々多端ヲ加フ汝等愈奮勵努力以テ朕カ信倚ニ副ハムコトヲ期セヨ



海軍省 撮影

長くも勇戦御嘉尙の勅語を賜ふ。何たる武人の光榮であらう。想へば山本元帥の壯烈な陣頭戦死の後をうけて以來七ヶ月、黙々と時至るを待ちに待った聯合艦隊司令長官古賀峯一大將が拂つた降魔の劍は、敵の艦艇七十隻、飛行機四百機以上を忽ち屠り去る。この大なる勝利の中にあつて自若く、宸襟を安んじ奉らんとひたすら次ぎの作戦を練る古賀大將に、草莽の微忠を竭さん葉隠武士の神髓がある

大東亞戦争日誌

十月

二十六日 ●ニューギニア島フィンシャール北方地区において依然敵艦隊中にして、日下特にソング河口附近の艦隊は依然。現在までに判明せる該方面の主要なる戦果次第の如し
(一) 敵に與へたる損害 遺棄死體約二千、兩度品、火砲十四門、銃器約六百挺
(二) 我が方の損害 戦死約三百五十名

二十七日 ●十月二十七日早朝、敵の一部隊モノ島に上陸せり。帝國海軍航空部隊は上陸點附近の敵艦を攻撃し、巡洋艦一隻を轟沈し、他の一隻を撃破せり

二日 ●(一) ニューギニア島におけるその後の戦況次第の如し
(イ) フィンシャール附近の我が部隊は果敢なる攻撃により敵に甚大なる損害を與へたる後、さうに態勢を整へ爾後の攻撃を準備中なり。十月十六日以降同二十九日まで判明せる主要なる戦果次第の如し
敵に與へたる損害 遺棄死體二千六百四十八、兩度品、火砲六門、銃器約六百五十挺、各種彈藥約十四万發、機銃約百挺、火砲十門、彈藥集積所三箇所、糧秣集積所三箇所
我が方の損害 戦死四百二十二名
(ロ) マダガスカル地方の我が部隊は逐次増強中の敵に對し果敢なる攻撃を續行中にして、九月下旬以降現在までに敵に與へたる損害一千名を下らず

(二) 緬支戦境方面の作戦は順調に進捗し、該方面の我が部隊は怒江以西の重要軍の退路を完全に遮断し、取敵を隨所に捕獲撃滅すると共に、次期作戦を準備中にして、十月下旬以降同二十七日までに收めたる主要なる戦果次第の如し
遺棄死體一千二十、俘虜百十、兩度品約十三万發

五日 ●既報モノ島上陸點附近の敵艦隊に對する攻撃において、帝國海軍航空部隊の撃けたる戦果に左記を追加す

(イ) 敵に與へたる損害
轟沈 巡洋艦一隻(自爆の戦果による)、大型輸送船一隻、撃沈 小輸送船一隻、撃破 大型巡洋艦一隻、小輸送船一隻
(ロ) 我が方の損害 未詳
(ハ) モノ島上陸以來敵の動靜を監視中のところ、十月三十一日有力なる敵輸送船隊に分れ、ニューギニア島南方海面を北上中なるを發見し、所在帝國海軍航空部隊並びに海上部隊は直ちにこれを襲撃して左の戦果を得たり
(ニ) 海軍航空部隊は十月三十一日夜より十一月二日朝にかけてモノ島東方海面およびブーゲンビル島西方海面において、一部上空直衛を配せる敵輸送艦隊を攻撃せり
(ヘ) 敵に與へたる損害
轟沈 大型輸送船 二隻
撃破 巡洋艦 一隻
上陸用舟艇 四十隻以上
大型巡洋艦 一隻
大型輸送船 二隻
大型輸送船 二隻
巡洋艦 一隻(自爆の戦果による)

(ホ) 敵に與へたる損害
撃破 大型巡洋艦 一乃至二隻
その他 驅逐艦一隻同志討にて炎上せるを認む
(ロ) 我が方の損害 驅逐艦 一隻
本海軍をブーゲンビル島沖海軍と呼ぶ
(二) 敵の一部は十一月一日早朝ブーゲンビル島トロキナ附近、同日朝ハモン南側地區に上陸せり。同地陸軍部隊はこれを逐次捕獲中なり。

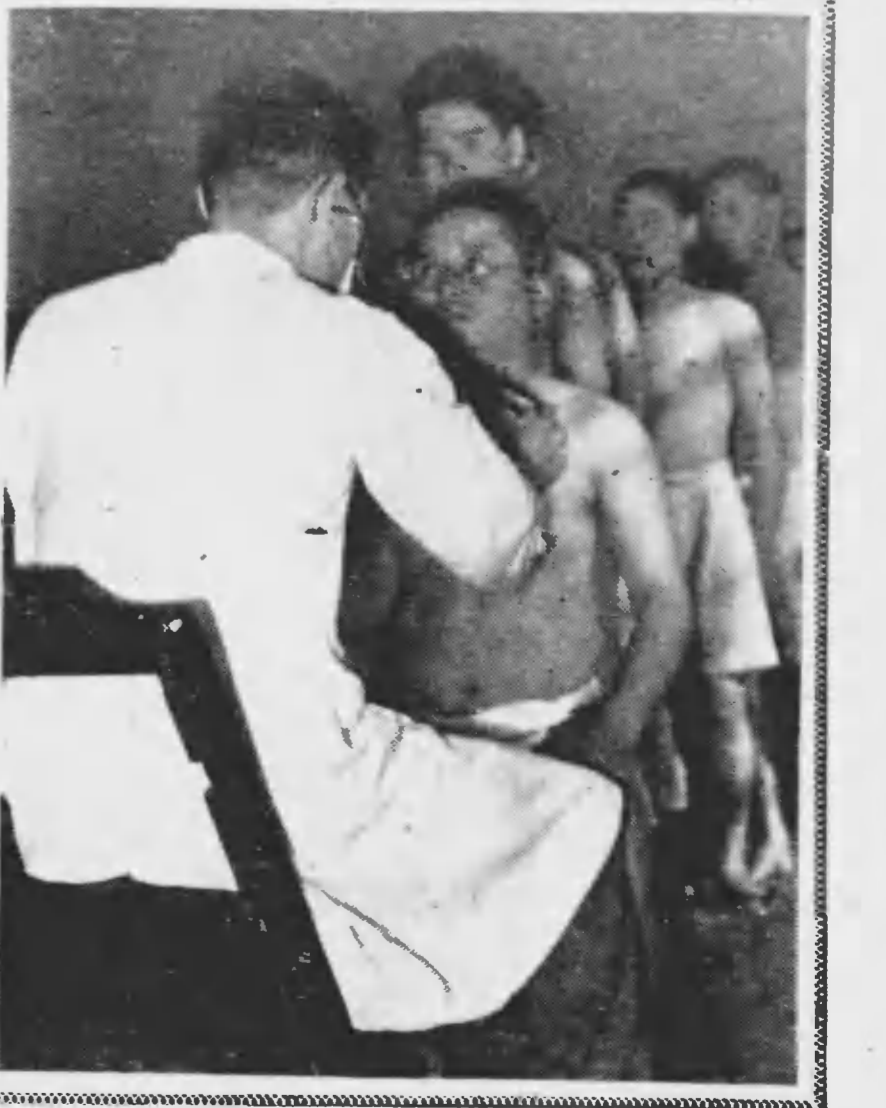
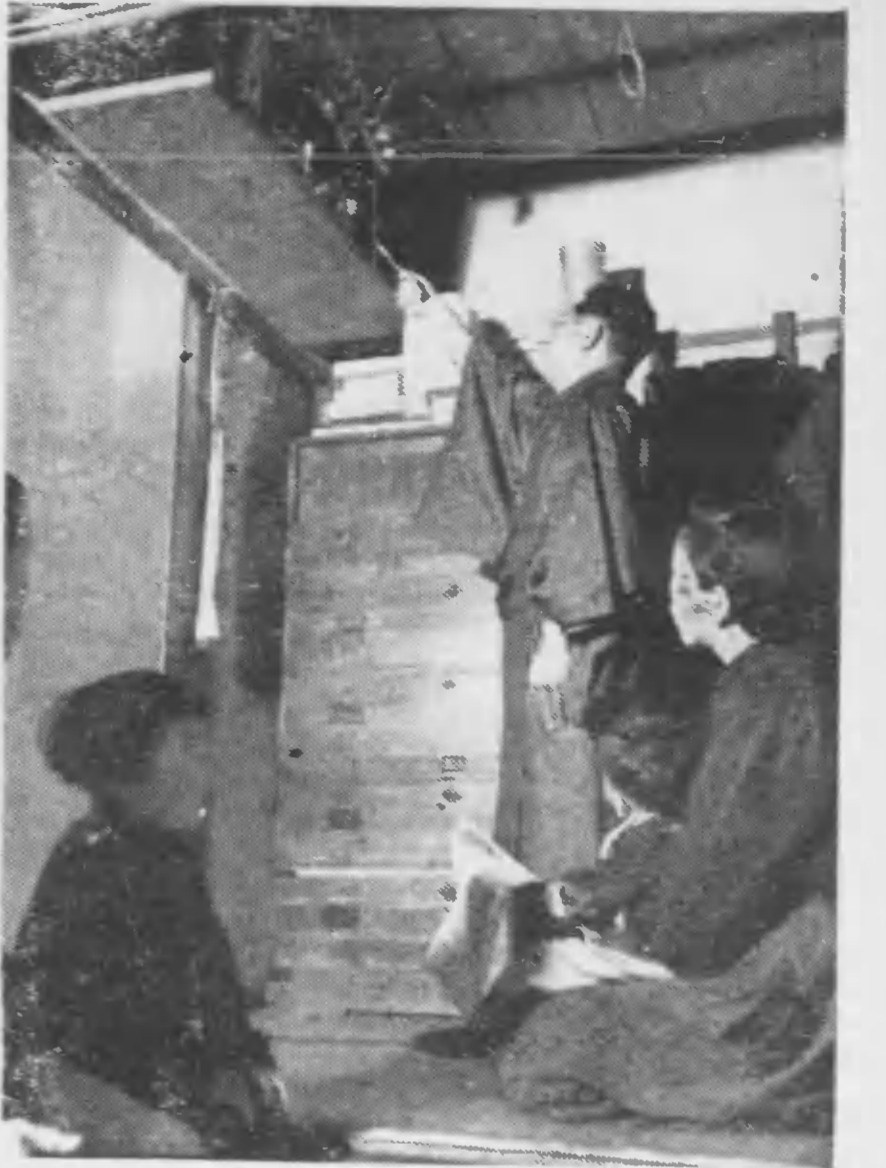
われらあとに続かん

三重海軍 航空隊

平常にあつては既述通り、純真にして一點の勝影もなく、戦艦を燃やしては勇猛果敢、敵料敵生時代にも早くもこれが海軍の誇りである。あとに続く者達の頼もしい姿だ



撃破 大型巡洋艦 一乃至二隻
その他 驅逐艦一隻同志討にて炎上せるを認む
(ロ) 我が方の損害 驅逐艦 一隻
本海軍をブーゲンビル島沖海軍と呼ぶ
(二) 敵の一部は十一月一日早朝ブーゲンビル島トロキナ附近、同日朝ハモン南側地區に上陸せり。同地陸軍部隊はこれを逐次捕獲中なり。



出頭命令書の裏面に「出頭命令書の裏面に「出頭命令書の裏面に」

征く送るも赤紙と同じ心で

應徴者の心をくんで迎へませう

野地の第 第一信

元気で軍務に御精勵の由、一同喜んでゐます。こちらも皆、丈夫實は、今日僕は國民徴用の出頭命令書をいただいた。もし僕が適格者ならば、御國が、戦争遂行上非常に大切な仕事に就かせてやるから、まづ徴用検査に出頭せよ、といふ御命令なのだ。



本音を吐くと、最初は心の動揺を免れなかつた。家内も多少はうろたへてゐるやうだつた。だが、僕はすぐ、お前に濟まない。恥づかしいと思つた。

しかし、これでさつぱりした。無學者の僕だが、お前が出征してから、新聞なども新聞に読み、米をやつけるために、いま何が足りないか、多少は考へてゐる。ほんたうに晴れの應徴だ。お前は戦地で、僕は戦後で、思ひ切り御國のため働ける日が来るのだ。

後顧の憂ひのないやう、十分お店の後片付けをして、御召しの日を持つつもりでゐる。

第二信

随分御無沙汰した。その間、無事徴用検査も済ませ、勿論、合格、徴用令書もいただいた。明日はいよいよ、勤務地に出頭することになった。徴用令書には、従事すべき職務、員業務として、軍事上、特に必要な兵器その他軍需品の製造に關する業務とある。何といふ誇らかな氣持だらう。僕もお前がしたやうに徴用令書を神棚に供へ、覺悟を新たにしたい。

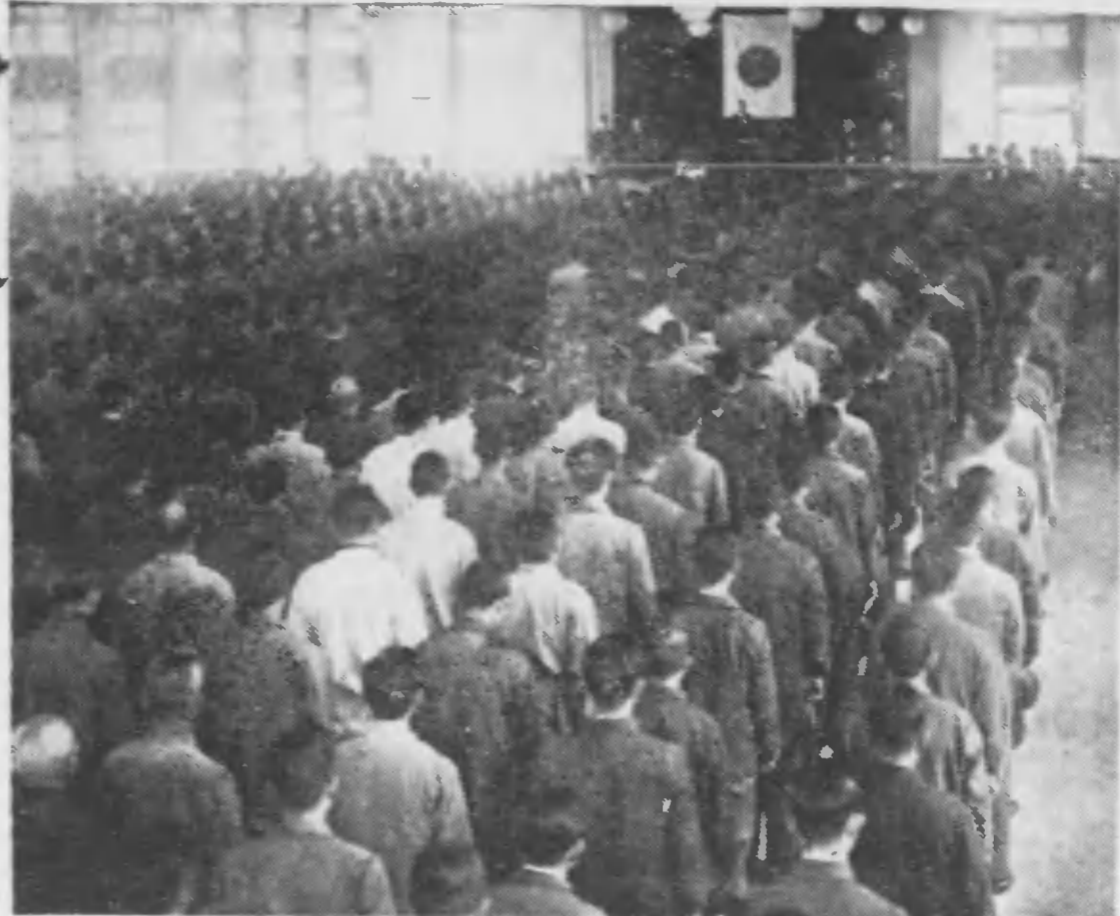
これに、残つた家族が生活に困るやうなときには、軍事扶助と同じやうな國民徴用扶助といふ制度で、十分面倒をみて下さるといふ。また、應徴前の収入と應徴後の収入が餘りかかはなれてゐるときには、その差額の補給もして下さるといふ。兵隊さんと同様、全く至れりつくせりの取扱をうけるわけだ。あとに、何の思ひを残すことがあらう。

また、町會の方々、殊に隣組のみなさんのご親切には、かへつてこつちが面映ゆい位だ。お前を送り出すとき、心の底から『後のことは心配するな』といつた。僕は今は、勿體ないことに、お前と同じやうな激動と恩情の中に包まれてゐる。家内もなかく健康なことを言つてくれた。

明日、出発のことを思ふと、心がときめく。身は軽く、心も大切にしたい。では

兄より





〇〇工場より 第一信

今日入所式を終へ、いよいよこの應徴士だ。工場の内容は、お前にもうっかり話せない。軍服が軍服宣誓法やその他の軍紀に従はなければならぬ。今日からは、僕たちも應徴士として、軍服上勤務規律に服さなければならぬ。不心得なことがあれば、勿論懲戒も受ける。しかし僕は、國家が定めた規律に服し得るやうな身分を、男としてこの上もない殊遇だと思ふ。殊にうれしいのは、この工場の社長も、僕らと同じ應徴士、僕らの戦士であることだ。

そのうち僕の晴れ姿を送らう。胸には鮮く應徴士徽章、中央の精神を現はし、また柄に配されてゐる櫻花は大和心。針はわが大日本帝國の上代の美しい呼名、細支千足國のほこりであり、兵器を現はしてゐる。その上、旭光は八紘爲宇のわが愛國精神を示す……頭張るぞ。口幅たいやうだが、徴用の本義に徹して頭張るぞ。

これから、三ヶ月の訓練期間がある。寄宿舎も住み易さうだ。何の心配もない。ではまた軍務に一層精出して下さい

兄より

征くも送るも赤紙と同じ心で
應徴者の心を
くんで迎へませう



第二信
今日の感激を何といつて傳へたいといふか。漸く訓練期間も終つて、まだ十分とはいへないが、今日から機械につくことになつたのだ。馴れぬための興奮から、知らぬ間に時間がたつて、一日の作業が間もなく終らうとしたとき、あつた工場に駆け込んだ事務所の人が、第二次アークエンベル島沖航空戦の大戦果を傳へた。よくやつてくれた。萬歳！

弟よ、頭張らうぜ 兄より



生活貫軍人精神

岐阜県瑞浪町の
皆訓



午前五時訓練を拜、これについで
瑞浪町がそれだ



すべての訓練の基礎たる不動の姿勢
は、在郷軍人から直接に教育される



かつては人夫の手をわづらはしてゐた道の
浚渫と道路の補強。みんなて共同作業だ



馬事訓練は国民学校の校長先生が先導となり、指導員は
国民学校の先生たちで、馬に経験ぶかい在郷軍人である

現代の戦争が國民と國民との戦ひであることはいふをまたない。國民はすべて兵隊でなくてはならぬ。しかし、前線將兵がさらけ出さず苦難に堪へ、激しい戦闘に挺身してゐる姿を想ふとき、銃後の兵隊としてのわれわれは、顧みてひそかに取つて置かないであらうか。いまこそすべての國民は、潮引なしに兵隊の心を心とし、軍人精神を生活の柱として生きねばならぬときである。

さて、軍人精神を修得するに際しては、軍に、やがて兵隊となさるべき青年たちや、青壯年團もしくは警防團等にかぎられべきではなく、これを全國民に及ぼさねばならぬ。すべての人々が奮然な軍人精神につらぬかれてこそ、はじめてわれわれすべてが一億の戦ひを戦ひ、大東亞共榮への壯大なる戦ひに参加してゐるといへる。

以上のやうな見地から、はやくより全町民皆訓練に乗り出してゐる町がある。岐阜県瑞浪町がそれだ。

その訓練の方法としては、隣組員を訓練対象とし、以て全町民皆訓練の完成を期してゐる。即ち町會長を主體として、隣組指導者をまづ訓練し、次ぎにこれらの指導者によつて一般の隣組員の訓練が行はれるやうになつてゐる。

一般の隣組員の訓練は、さきに訓練済みの指導者の指導、下に、防室訓練と隣組の行事訓練とから成つてゐる。隣組の人々は、この指揮の下に積極的な熱意を示し、すんでこの皆訓練に全副、現在では町民が、然らずとも訓練に生きるやうになつてゐる。



みんな供出のおきてすみんなの汗が凝つて、こんなに大きくなつたおきてす

この訓練の成果は、さきに訓練済みの指導者の指導、下に、防室訓練と隣組の行事訓練とから成つてゐる。隣組の人々は、この指揮の下に積極的な熱意を示し、すんでこの皆訓練に全副、現在では町民が、然らずとも訓練に生きるやうになつてゐる。

共同耕作、神社参拜、少年の騎馬訓練等の面に反映されてゐる。

自分らの手を道路を修理し、この經費は全く自らの手から成る隣組は、百三十人を動員して地一町一段の共同耕作を行ひ、本年度は廿路三千三百八十五貫の收穫をあげ、既に七百貫を供出した。昨年度にこの畑であげた麥の製作は七百で、二石を供出した。また或る隣組では、昭和十二年以來、その月の朝日を助けて未明の五時に神社参拜、英靈の眠る寺院参拜を行ひ、詔書の奉讀、町是を修つて後、各の職場に挺身してゐる。少年に對

かうした成果こそは、町民が軍人精神體得への熱意が結實した故であり、殊に注目すべきは、この皆訓練が既に約八年の歴史を有してゐることである。戦力増強を目標とするの種訓練は、いやしくも形式に墮し、線香花火的に終つてはならない。どこまでもつゞけ、あくまでもやり抜く訓練でなくてはならぬ。瑞浪町の皆訓練はこの點でも好例といふことができよう。

みんな供出のおきてすみんなの汗が凝つて、こんなに大きくなつたおきてす

みんな供出のおきてすみんなの汗が凝つて、こんなに大きくなつたおきてす

一粒の米にも神恩も人も恩



一粒のお米にもこもる無数の神恩と、収穫までにははられた言ひ知れないお百姓さんの苦勞を思へば、瑞穂の國に生れたことの有難さをしみじみと感謝しないではおられません。ましてこの決戦下に、日々、糧にとかく愛ひもなく一億がその總力を決戦に集中し得られるのは、肥料の

対上げて一息ついたヨイコの収穫感謝部隊



廻る脱穀機。増産は全速力だ。あとからと運ばれる稲束は無事脱穀も急がなければ、と依りつまつた新穀は早くも船につまれて



お初穂を氏神様にそなへるお百姓さんの氣持こそ國民全體の新穀感謝の氣持だ。供出米の俵に日の丸を立てたお百姓さんの氣持には、たと頭がさがるだけだ。前線にあがる戦果になぞらへたこの戦果、兵隊さんのやうにたと減私の奉公がらんだ尊い戦果だ。

不足や人手不足を何とか工夫し、労働時間を延ばしてまで食糧戦に敢闘してゐるお百姓さんの不屈の努力によるものであることを思へば、どんな言葉でもお禮を述べても足りないのです。早くも新穀の収穫と供出を終つた農村では、土地の改良や麥の増産に、農閑期といふ言葉をやつとばして、早くも來年度の食糧確保に大奮です。



十二月の八日は輝く大東亞戦争満二周年記念日に當ります。大東亞の建設は着々と進展し、こゝに聖戦第三年を迎へますが、敵の反攻はいよ／＼はげしく、戦局は深刻の一途をたどつてゐます。私どもは一昨年十二月八日のあの感激を三たび新たに、あくまで長期戦を勝ち抜く覚悟を固め、今こそ一人残らず戦闘配置について、生産戦に、國土防衛に、總力を發揮せよ。

一 十二月だけで『六十億貯蓄』を達成せよ
 一 昨年は十二月だけで三十億を、昨年は四十億を貯蓄しました。今月こそは是非でも『六十億』を目ざして總攻撃せよ

二 應召した氣持で一層勤勞に勵み、年末の消費を切詰め、なほ臨時収入も貯蓄や公債消化により向けること

三 進んで貯蓄券を買ふこと

二 年末年始の輸送力を強めませう
 不念の旅や荷物の託送は、戦争になくしてはならぬ大切なものの輸送をさまたげます。勝つために必要な輸送に協力しませう



お知らせ

大東亞戦争二周年記念日を迎へ、本誌は來る十二月八日(第百三十三號)を倍大號とし、大東亞共榮國各地の建設現況、並びに米英對決への道の特報を掲載します。定価は一部二十銭。なほ、このため十二月一日號は休刊致します

必勝貯蓄！ コドモの保険！

ボクラは練成—家庭は貯蓄



富國徴兵

写真週報
禁断轉載

昭和十八年十一月
廿四日 印刷發行

情報局

印刷局

部十錢
送料
▲特大銃の場合
其の都度御申
受けます

所 達 申
新書店 郵賣店
新聞店 販賣店

本誌掲載の寫真中、攝
影者名或は提供者名
を特に附してゐないも
のは財団法人寫眞協會
の製作によるものです
又、海軍関係の寫真複
数は海軍省承認第五
四號です

本誌を、購読や贈場
て回覧するなど、出
来るだけ有効に御利
用下さい

前線慰問にも
またお読みになつた
ら本誌を前線慰問に
送りませう。送料は
内地と同様に封封あ
るひは開封にして第
一部に送ります

印刷局印刷發行

写真週報 昭和十八年十一月廿四日 印刷發行 部十錢 送料